

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立 ありおか幼稚園

教育目標		心身豊かに共に育ち合う子どもを育てる						
重点目標		心身豊かに共に育ち合う子どもを育成する保育を創造する						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
きめ細やかで特色のある幼児教育の提供	・創意工夫を活かした教育課程を編成する。 ・幼児理解と教師の保育力の向上を目指した園内研究会を実施する。	・学期ごとに、教育課程、幼小接続カリキュラムを見直し、子どもの実態を踏まえながら24ヶ月の保育について考える。 ・園内研究会や園内の職員同士で保育を見合う機会を学期に1回以上持ち、保育の見直しや改善を行っている。子ども達が思いを伝え合う力を育むことが出来る環境構成や教師の援助の視点で学びを深め合う。 ・毎月研究の視点での保育実践の事例や短期指導計画に記録している伝え合いの視点の子どもの育ちをもとに協議を行う。職員同士で個々の実態を把握し、保育についての振り返り、評価を行う。 ・講師を招聘し、教師の資質向上のための計画的な研修を行う。	・年に3回教育課程、幼小カリキュラムを見直し、園独自の教育課程を編成する。 ・各担任が学期に1回以上、保育公開を行う。 ・思いを伝え合う姿についての実践事例を作成したり、個々の伝え合う姿を短期指導計画にエピソードの記録を行い、日々の環境構成や教師の援助について振り返り、検証を行う。	A	・研究事例の中に教育課程のねらいや学期の保育のねらいをいれ入れたこと、幼児の姿を照らし合わせながら、教育課程を見直すことができた。 ・1学期に1回、2学期に2回園内研究会を行うことができた。また、講師の先生を招聘した園内研究会を年に3回(6月、9月、11月)行うことができ、子どもの主体的な姿を育む環境の構成や教師の援助の視点について学びを深めることができた。今年度は11月に市教育委員会指定研究会で保育を広く公開し、本園の研究を知らせることができた。また、参加者同士の意見交換を行ったことで、学びを深めることができた。 ・短期指導計画に伝え合いの視点でエピソードの記録や環境の構成のポイントを記録していったことで、子どもの育ちや学びについて振り返りができ、研究を深めることができた。また、事例研究を毎月1回行い、職員同士で学び合うことができた。	・今後も子どもの実態を踏まえながら教育課程や幼小連携計画について見直しを行っている。また、連携計画については教育課程と照らし合わせながら、職員全体で編成を行っている。 ・今後も計画的に園内研究会を行いさらなる教師の資質向上を目指していく。	・市内研究発表会で多くの先生にありおか幼稚園の特色と良さを知ってもらえたこと、特色のある教育をアピールできたのではないかと。 ・先生方の取り組みや努力は十分伝わっているため、改善策について達成できることを期待する。	
	豊かな表現力の育成	・一人一人が自信を持って自己表現できる保育を工夫する。 ・幼児期からの読書習慣の定着を図る。	・自分が感じたことを言葉や色々な方法で表現しながら自己表現できる機会を持つ。 ・絵本の貸し出しを週1回行い、月に1度感想の欄に読み聞かせの様子を記入してもらうように保護者啓発をする。 ・月に1度担任からのコメントを返す欄を設ける。 ・定期的に小学校の図書室へ行く機会を設け、絵本への興味を広げると共に、小学校の図書教育や司書の連携を図る。 ・PTAサークルによる読み聞かせを月1~2回実施する。 ・PTAサークルによる読み聞かせの機会を持つ。 ・町の先生などを招聘し、地域の教育力を活用しながら幼児が絵本に親しんだり興味関心を広げられる機会をつくる。	・一人一人が色々な方法で自分なりに自己表現ができるようになる。 ・5歳児40冊以上、4歳児25冊以上の絵本の貸し出しを達成する。 ・月に1度必ず保護者が感想の記入をし、担任から毎月コメントを記入する。 ・5歳児は年に2回、4歳児は年に1回小学校の図書室へ行き、絵本への興味を持たせると共に小学校の図書教育との連携を図る。 ・PTAサークルによる読み聞かせを月1~2回実施する。 ・町の先生などを招聘し、地域の教育力を活用しながら幼児が絵本に親しむ機会をつくる。	A	・様々な場で感じたことや気付いたことを2人組、グループ内で話し合ったり伝えたり、友達のことを聞いてあげる機会を積み重ねてきた。言葉に頼らない個々の思いの表現を共有したり、自分らの言葉で思いを表現したりする経験を積み重ねることで、自分なりに自己表現できる子どもが増えた。 ・貸し出し冊数は目標冊数を達成することができた。 ・毎月の絵本貸し出しカードに保護者の感想や教師のコメントを記入する欄をつくることで、家庭と幼稚園の様子を互いに共有できる機会になった。 ・5歳児は年に3回(毎学期)、4歳児は年に2回小学校の図書室に行くことができ、小学校の図書室の環境への興味や小学校の先生との関わりを深めることにつながった。 ・絵本サークルによる読み聞かせや地域の方の力を借りながら、絵本に親しむ機会をつくることができた。	・引き続き、一人一人が自分の思いを素直に表現する楽しさを感じることが出来る保育を工夫していく。 ・今後も全保護者が絵本の読み聞かせを行っていくことができるように、絵本の良さを啓発していく。 ・子ども達が様々な絵本に興味を持って保育室に絵本コーナーを設けるなど親しみ合える工夫をする。	・子ども達の目線に合わせて、丁寧に保育されていると思います。 ・園長先生の絵本の読み聞かせや園便りでの本の紹介は魅力的で、これからも続けて欲しい。 ・3年保育になることで、絵本室の運営が難しいと思うが、絵本はとても大切だと思うので、充実した絵本コーナーになるよう期待しています。 ・毎月の絵本貸し出しカードに保護者の感想や教師のコメントを記入する欄をつくることで、家庭と幼稚園の様子を互いに共有できる機会になっていったと思う。
	特別支援教育の推進・充実	・一人一人の個性を大事にし自分らしく表現できるように、個々の発達段階や課題に応じた適切な指導・援助を行う。	・特別支援担当者の記録を基に、特別支援教育担当者担任が子どもの実態について共通理解し、一貫した支援を行う。 ・学期ごとに個別指導計画を立て、全職員での共通理解を図る。また、保護者に開示して、子どもの課題に対して園での取り組みや支援方法を伝え、園と家庭との連携を密にする。 ・特別支援対象児だけでなく、全園児に対し発達の課題に応じて関係機関と連携を密にし、集団参加・社会参加において、子どもや保護者にとって効果的な援助や支援方法を考える。 ・子どもの実態や課題に応じて、クラス活動に自信を持って参加できるように個別な支援を行う。	・保育後に気になったことを職員間で話し合い上げ、全職員で子どもの姿や支援方法について共通理解をする。また、学期末に個別指導計画を話し合ったことは、次の個別指導計画作成につなげ子どもや保護者の支援に生かす。 ・学期に2回、保護者に個別指導計画(まとめ)を開示し、子どもの発達状況や園での支援方法を伝え、園と家庭が共通理解する場を持つ。 ・子ども達一人一人の発達について職員間で話し合い、必要に応じて、関係機関と連携を取っていく。	A	・学期ごとに個別指導計画を立て、それに基づいて全職員で話し合い、保育活動の中で一貫した支援を行うことができた。また、保護者に開示し、子どもの発達状況や園での支援方法を伝え、共通理解を図ることができた。 ・特別支援対象児以外の子ども達の発達についても、専門機関と連携を図り、特性に応じた支援のあり方を考えていくことで、個に応じた支援を行うことができた。 ・就学相談希望の子ども・保護者と共に教育相談を受け、家庭や園での支援方法について、指導を受ける機会をもつことができた。	・特別支援対象児に対する支援については、学期毎に全職員で話し合い、共通理解のもと支援を行うことができたが、それ以外の子ども達や保護者支援については、職員間で話し合いを持つことは少なかった。特別支援対象児の話し合いの際に、それ以外の子ども達についても話し合う機会を持つ。 ・学校園等コンシェルジュを利用したが、1回のみ利用となつた。指導を受けたことを実践してみたことへ評価をもらうための、指導を受けることと良かつたのではないかと。	・個人を大切に保育している様子ととて、学期毎に全職員で話し合い、共通理解のもと支援を行うことができた。子ども達も自然と援助の仕方を学んでいるんだと思う。
豊かな心・思いやりの心の育成	・基本的な生活習慣の確立や、身近な人との関わりを通して相手の思いやりの心、自尊心を育む。	・「ほげんのはなし」や「けんこうカレンダー」を活用し、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、家庭や身近な人との関わりの中で相手を尊重する気持ちや規範意識を養う。	・月に1回ほげんの話をする時間を設け、共に「けんこうカレンダー」を活用し、家庭で健康について話し合い、意識して取り組む機会を持つ。 ・家族に感謝の気持ちを伝える機会や周囲の人の愛情を感じられる機会を持つ。 ・飼育栽培活動を日々行い、命をつなぐ大切さを体感する。	A	・「ほげんのはなし」や「けんこうカレンダー」は継続して定期的に実施し、園と家庭で協働しながら健康活動を推進することができた。 ・友達や家族、地域の人と触れあう機会を行事などで多く取り入れることで、自分や他者大切に、尊重しようとする豊かな心や思いやりの心の涵養に繋がった。 ・地産地消とする栽培活動や、うさぎの赤やんの飼育を通して、生命の尊さを感ずることができた。	・保健指導は子どもの視点を考慮して内容の構成に努めることができたが、子どもの現状課題に即していたかは不明瞭であったため、指導内容を予め職員間で共有し、検討する。 ・豊かな心や思いやりの心の育成のために、引き続き、飼育栽培活動や人と触れ合う機会を多い行事を取り入れていく。	・健康カレンダーがあると頑張れる！と言っている声を聞くので、親からのリクエストがあってもよいのかも。 ・子ども達は飼育や栽培活動を楽しんでいる。 ・ありおかの子がけんかをしてるところを見たことがない。けんかはあるのかもしれないが、お互いに注意したりする声かけができていないのではないかと。	
	豊かな心・健やかな体	・運動遊びに取り組み、喜んで体を動かす子どもを育てる。	・子どもが自ら体を動かしたくなるような環境構成や援助について考える。 ・保護者学習会を開き親子で触れ合いながら運動遊びを楽しむことをきっかけとし、幼児期における運動遊びの重要性について保護者への啓発を図る。 ・子ども達の実態に合わせて身につけたい力を読み取りながら、体力の向上を目指し、継続して意欲的に取り組むことが出来る運動遊びを考えていく。	・1日1度は、戸外で体を動かして遊ぶ時間を設ける。 ・様々な運動遊びに自ら関わり、体を動かす心地よさや楽しさを感じられるようになる。 ・年1回講師を招聘し、保護者学習会を行う。	A	・生活や遊びの中で自然と身体を使った遊びがなくなるよう、環境を整えたこと、自ら工夫しながら遊びを楽しむことが増えた。また、その季節ならではの遊びを全身で楽しむ、体力、持久力の向上につながった。 ・講師の方に来ていただき親子でできる運動あそびおよび講演会を開いたことや相談を教えたいただける機会を持つことができ、保護者に幼児期に必要な体作りについて考えるきっかけを作ることができた。	・引き続き、参観日の中で運動遊びの様子をみてもらうと共に、保護者にも参加してもらう機会を増やす。 ・講師の方に来ていただいた時に日常生活の中でできる運動や体力向上、身体の使い方について教えてもらう機会を設けると共に、事前に保護者の悩みや質問などを集め、講師の方に答えてもらうことで保護者の意識を高めていく。	・時間を決めて体操・マラソン等に取り組むことが多い。 ・行事が多いため子どもの生活リズムを保つのが大変の中、よくやっている。
	食育の推進	・食育を通じ、望ましい食習慣の形成に努め、食べる楽しさや喜び、食べることへの感謝の気持ちを育てる。	・栽培活動を通して、命の大切さや感謝の気持ちを育てる。 ・園で栽培したものを自分たちで収穫し、調理活動に親しむことで、食材の育ちや料理に興味関心をもち、食の大切さに気付くようにする。	・季節に応じた野菜を栽培し、収穫した野菜を調理したり、食食を行い、食べることへの喜びや感謝の気持ちを持つようにする。 ・栽培活動の様子や会食の様子などを写真で掲示したり、保健だよりで伝え、家庭でも食への興味や関心を深められる機会をつくる。	A	・地域の方と連携しながら、季節の野菜を栽培したり、収穫し自分達で調理して食べる経験をしたことで、食べることの喜びや感謝の気持ちを持つことに繋がった。 ・ホワイトボードを活用しながら栽培活動や会食の様子などの写真を掲示することができた。	・栽培活動を今後も地域の方と連携を取りながら、計画的に行っていく。 ・自分達で野菜を栽培し、収穫し食べることができた子どももいるため、今後も家庭への啓発を行いながら、食への関心を深めていく。	・ありおか農園は十分に活用でき、地域とも連携できている。
開かれ信頼される幼稚園	幼稚園情報の積極的な発信	・積極的に保護者や地域に幼稚園情報を発信する。	・幼稚園の掲示板に行事や普段の保育の中での写真を掲載し、情報を発信し啓発していく。 ・各クラスで新設のホワイトボード掲示板に、クラスや園の学び等の写真を教育内容ごとに掲示して情報を発信する。 ・園便りの毎月発行や、幼稚園のホームページを5回以上更新し、幼稚園情報を積極的に発信する。 ・保護者アンケートを行い、評価をいただく。 ・まちづくり協議会やみんなの広場等を通して、幼稚園の教育活動や行事等の情報を発信する。	・幼稚園の掲示板を毎月更新する。 ・各クラスでホワイトボード掲示板を教育内容ごとに更新する。 ・園便りを毎月発行し、自園のホームページを7回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、昨年度の割合を全ての項目で上回るようにする。 ・まちづくり協議会を通して、園の掲示や啓発紙(園のリーフレット、みんなの広場、園だより、案内チラシ等)の回覧を行う。	A	・他園との交流においては、すぐり保育情報発信できる場所を門とホワイトボードを増設したことで、保護者や地域に向け多くの情報を発信することが出来た。 ・毎月の園便りでは、お知らせだけでなく、行事の様子やミニコラムを掲載するなど工夫をこらした。 ・ホームページを毎月10回以上更新し、多くの情報を発信することができ、毎日の訪問者数が、平均80人を超えるようになった。 ・まちづくり協議会の会合等を通して、園だよりや各行事のお知らせを配ることで、地域の方々への園の様子や取り組みをお知らせすることが出来た。	・情報発信の為に、自治会へのアピールを積極的に活用していく。10日、25日が回覧日なので、行事の1ヶ月前に配っていく。また、掲示板の活用も計画的に行い、自治会の活用回数も自治会に確認しておくことと良い。	
	子育て支援事業	・地域の「幼児教育センター」として、その役割や機能を充実させ、子育ての支援活動を行う。	・降園後毎日や長期休業中に園庭開放を行う。 ・学期に1回、子育てに関する学習会を実施する。 ・本園主催で園児と未就園児との交流の機会を持つ。(なかよし交流会)また、内容の充実を図る。 ・月1回計画的にありっご広場(教育時間終了後等)を行う教育活動を行う。	・降園後毎日、長期休業中に園庭開放を行う。 ・学期に1回、子育てに関する学習会を実施する。 ・年間8回、なかよし交流会を実施する。 ・園児との交流、イベント、学習会、保護者支援等を行う。 ・年間10回、ありっご広場内容を考え実施する。	B	・来年度から3歳児保育が始まる中で、ありっご広場の実施が、預かり保育の開始とともに実施できなくなるため、なかよし交流会や園庭開放の方を充実して行ければと思っている。 ・来年度から3歳児保育が始まる中で、ありっご広場の実施が、預かり保育の開始とともに実施できなくなるため、なかよし交流会や園庭開放の方を充実して行ければと思っている。	・園情報は、園を離れると集めにくい面があるので、工夫がいるのではないかと。 ・園庭開放の充実方法をしっかりと考えて取り組んでいく。 ・園からのチラシ等を園医さんや公共施設にも置いてもらえるように工夫していく。	
幼小連携の強化	幼稚園と小学校の滑らかな接続	・幼稚園と小学校の滑らかな接続のために、教師間、幼児・児童間の交流を図り、互いの教育についての理解を深める。	・年間計画を基に、教師間で話し合いの機会を持ち、子ども同士の交流を進める。 ・小学校の教師が様々な分野で出前授業を行うことで、子どもたちが小学校に対して親しみや期待感を持つようにする。 ・授業研究、園内研究に参加したり、合同の研修会を行ったりして、教師が互いの教育観やつながりについての学びを深める。 ・講師を招聘した研修会に参加し、互いの講師の方から幼小接続についての学びを深める機会を持つ。 ・保護者に対して、幼小連携の重要性や取り組みの中での学びについて、写真やクラスだより等で情報を発信し啓発していく。	・年間計画を立て、子ども同士の交流を2学期から3学期の間に4回以上行う。小学校の先生と子ども同士の交流について事前に話し合う機会を持つ。 ・出前授業を学期に1回以上実施する。 ・年1回以上幼稚園が主体となる合同研修会を設ける。(夏季研修) ・校内研究会に学期に1回以上参加する。 ・交流活動について様々な方法(写真、クラスだより、学級懇談会、全体会等)で情報を発信し、家庭で話をする機会を持つ。	B	・年度当初に小学校の研究推進担当と幼小連携計画をもち、年間の交流について話し合う機会をつくることができた。 ・子ども同士の交流は継続的に行うことが難しかった。計画的な交流だけでなく、業間時間に小学生とけんかどろろを、幼稚園の作品展を見に来るなど自然な交流は多く機会を持つことができた。 ・小学校の先生による出前授業を年2回、図書館交流を年長児3回、年少児2回持つことができ、小学校の先生に対して親しみを持つ機会になった。 ・小学校の校内研究会および事後研究会に参加し、一緒の場で学び、互いの教育観や子どもの学びについて意見を交換することができた。また、今年度も夏季休業中に幼稚園が主体となる研修会をすることができ、小学校の先生方と学ぶ機会を持つことができた。 ・幼小交流についてはクラスだより、ホワイトボードを活用して写真を掲示、学	・幼児と児童の交流、職員交流・研修などの計画を立て、事前事後の話し合いを持つ機会を持つようにする。また、幼小連携の取り組みを全職員で組織的に取り組めるようにしていく。 ・幼小連携の意味では、「年長児のごまごまできる」を小学校に伝え、1年生保護者や地域の方に理解を得られるように啓発に努める。また、今後とも啓発の工夫を工夫していく。	・幼稚園で伸びた長所が、1年生になるとあまり活かされず埋もれているように思う。(例えば、リレーは幼児トラックを走っているが、1年生になると直線にもどる) ・幼小連携の意味では、「年長児のごまごまできる」を小学校に伝え、1年生保護者や地域の方に理解を得られるように啓発に努める。また、今後とも啓発の工夫を工夫していく。

学校関係者評価総括  
・先生方の小さな気配りが、園のあちらこちらで見受けられる。その小さな気配りに保護者も気がついているので、保護者の評価も上がってきていると思う。1度は廃園宣告を受けたありおか幼稚園だが、地域全体の方で、分園という形ではあるが存続となり、教育委員会が幼小連携を古くから取り組んでいるありおか幼稚園を評価している事は事実です。これからも強みを活かして自信を持ってありおか幼稚園を守っていきましょう。

次年度に向けた重点的な改善点  
・幼小接続に向けた幼小間の連携の取り組みを充実発展させると、引き続き研究の取り組み及び幼小連携の必要性や重要性を小学校・保護者・地域にも発信する。  
・「なかよし交流会」及び「園庭開放」の取り組みを充実・発展させ、地域の人材も活用しながら幅広い取り組みを実践していく。  
・本園の教育活動に関する情報発信やPR活動に対して、地域の協力を得ながらより効果的な方法で実践する。